

「JENESYS2019」アジア国際子ども映画祭 2019 参加訪日団の記録 (対象国：中国、テーマ：アジア国際子ども映画祭)

1. プログラム概要

中国教育部が派遣したアジア国際子ども映画祭 2019 参加訪日団の高校生 10 名が 12 月 3 日から 12 月 11 日までの 8 泊 9 日の日程で来日しました。

一行は、兵庫県南あわじ市で開催された第 13 回アジア国際子ども映画祭、および関連プログラムに参加したほか、東京では高等学校を訪問し、日本の生徒と交流しました。また、兵庫・埼玉・東京で、日本の文化・歴史・自然など、様々な分野の視察・参観を通じて包括的な対日理解を深めました。報告会では、帰国後のアクション・プラン（活動計画）について発表しました。

2. 日程

12 月 3 日（火）：大阪府

関西空港より入国

【オリエンテーション】

12 月 4 日（水）：兵庫県

兵庫県へ移動

【テーマに関する交流】映画祭作品視聴

12 月 5 日（木）：兵庫県

【表敬・交流】南あわじ市表敬・ウェルカムセレモニー

【学校交流】吉備国際大学 南あわじ志知キャンパス

12 月 6 日（金）：兵庫県

【文化体験】淡路人形浄瑠璃鑑賞

【見学】鳴門の渦潮

【視察】福良港津波防災ステーション「うずまる」

【テーマに関する交流】前夜祭（交流会）

12 月 7 日（土）：兵庫県

【見学】淡路ファームパーク イングランドの丘

【テーマに関する交流】アジア国際子ども映画祭本選大会・授賞式、アフターパーティー

12 月 8 日（日）：兵庫県・埼玉県

埼玉県へ移動

【見学】SKIP シティ映像ミュージアム

【体験】温泉旅館宿泊

12 月 9 日（月）：埼玉県・東京都

【見学】秩父神社、秩父まつり会館

東京へ移動

【見学】東京タワー

12 月 10 日（火）：東京都

【学校交流】下北沢成徳高等学校

【見学】皇居二重橋

【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表

12 月 11 日（水）

羽田空港より出国

3. プログラム記録写真（訪問地：兵庫・埼玉・東京）



12月5日【表敬・交流】南あわじ市表敬・ウェルカムセレモニー



12月5日【学校交流】吉備国際大学南あわじ志知キャンパス



12月6日【文化体験】淡路人形浄瑠璃 鑑賞



12月6日【見学】鳴門の渦潮



12月6日【視察】福良港津波防災ステーション「うずまる」



12月6日【テーマに関する交流】前夜祭



12月7日【テーマに関する交流】
アジア国際子ども映画祭本選大会・授賞式



12月7日【テーマに関する交流】
アフターパーティー



12月8日【見学】
SKIP シティ映像ミュージアム



12月9日【見学】秩父まつり会館



12月10日【学校交流】
下北沢成徳高等学校



12月10日【報告会】団員による感想・
アクションプラン発表

4. 参加者の感想（抜粋）

○ 映像制作の分野で他国の生徒と技術的な交流をし、その国の事情や地域の違いによって、同じテーマでも表現の仕方が違うのだと分かった。また、テーマの決定や技術面においても、多くの優れた国・地域の参加があった。彼らとの交流を通して、テーマに対する理解がより深まったし、技術的な知識も増えた。

生活体験においては、日本の文化の雰囲気と美しい景色が印象に残っている。秩父神社、大鳴門橋、東京タワー・・・日本の風土人情について理解が深まった。

○ 関西国際空港に到着した後、最初に気づいた違いは、あちこちに自動販売機とコンビニエンスストアが見えることだった。その後の旅程の中で、日本への理解が次第に深まっていった。日本の国民の素養の高さ、善良で友好的な態度、仕事熱心な姿が最も印象に残っている。通りにはどこまで行ってもゴミ一つ落ちておらず、少しの汚れもない清潔な印象を持った。淡路の農村や田舎の道も同じように清潔なのだ。道行く人だろうと自動車だろうと、私たちが相向かいとなり、いずれかが譲らなければならない状況になると、日本人はいつも譲っている。最大限、安全を確保したいからだ。先生の紹介で知ったのだが、日本人は仕事と日常生活を分けているようだ。オフの時は日々の暮らしを大事にし、仕事の時はしっかり働く。それはある種、仕事熱心だと思った。バスの運転手、タクシーの運転手、コンビニの店員、道路工事の作業員まで、私が会った誰もが、その働き方から、彼らが自分の仕事に責任感を持って取り組んでいると分かった。私たちも学ぶべきところだと思う。中国と日本の文化はどちらも、東洋文化を代表するものであり、古風で素朴、かつ優雅だ。しかし、日本のほうが伝統文化を民間により深く浸透させていると思う。

映画祭と学校交流で得たものは大きかった。異なる国・地域の生徒との交流を通して、彼らの学校生活や取り巻く社会の状況について、これまでと違う見方ができるようになった。

○ 日本はとても親近感の湧く国だ。人々は皆礼儀正しく、多くの人が目が合えばお辞儀をしてくれる。印象深かったのは日本のしゃぶしゃぶだ。今回、初めて食べてみた。最初は火鍋と同じだと思っていたが、後からやはり別物であると分かった。それから、日本の高校も印象的だった。生徒たちとの交流を通して、日本の高校の始業は8時半、終業は3時だと知り、とても緩やかな学校だと感じた。彼女たちは私たちの普段の時間割を聞いて、とても驚いていた。たぶん彼女たちの教育システムは比較的開放的なのだろうか（このような言い方をしてもよいが、よく分からないが）。そのうえ、彼女らの学校には食堂がなく、皆お弁当を持参するようだ。どうやら学校に食堂があってもよいということが分からないようで、大きな文化の違いを感じた。

○ 今回が初めての日本訪問だった。私は食いしん坊なので、日本での食事が印象に残っている。

日本の食事は冷たいものが多い。例：刺身、寿司、天ぷらなど。そのうえ、味付けがあっさりしていて、しゃぶしゃぶのスープまでお湯だった。だけど、タレの味付けは濃い。例：醤油やワサビなど。

それから、中国では先の丸い箸を使うが、日本では尖った箸を使う。たぶん日本ではいつも刺身などを食べるため、尖った箸が突き刺して食べるのに便利なのだろう。はさんで食べるのは滑りやすいから。

日本のお菓子には満足した。特に抹茶を使ったものが好きだ。

全体的に、日本の食文化とマナーが印象深かった。

○ 12月10日、ある女子高（下北沢成徳高等学校）を訪ねた。生徒たちは皆温かく、様々な交流を行った。まず、2人の生徒が中国の生徒1人を案内する形で校内を参観させてくれた。すべて英語で交流して、お互い打ち解けることができた。校舎にはたくさんフロアがあり、使い分けが明確だった。今回の交流は、学校交流の一つのお手本となるような内容だったと思う。面白い活動がたくさんあり、本当の意味での意思疎通と交流ができたと思う。しかし、残念だったのは、中国の世界文化遺産を紹介する時、日本側の生徒が4人しか参加していなかったことだ。大勢の生徒が出席する講演のような形にするべきだったと思う。中国の代表メンバーは真剣に講演内容を準備していた。もっと多くの人に聞いてもらい、広く伝えたい内容だった。今回の映画祭の感想はたくさんある。多くの友達、様々な国から来た友達ができ、一緒にゲームをして、たとえ英語が流暢でなくても、思う存分楽しめた。アフターパーティーではハイになって、みんな舞台上がって踊り、とても打ち解けた雰囲気になった。連絡方法を交換したので、これからも交流と学習を続けていきたいと思う。日本の温泉旅館も特色があって、とても印象に残っている。本当に気持ちがよかった！心も体もほぐされたし、露天風呂から見る景色も美しかった。この映画祭では、とてもすばらしい先生と出会った。仕事がとても周到で、生徒の一人一人に気を配ってくれる先生だった。

5. 受入れ側の感想

◆日本高校生

○ 私と同じ歳くらいの高校生たちが映画を作っているということにとっても驚いたし、すごいなあと思いました。日本文化紹介の時は、今年の夏到北京に行った話をすると「どこに行ったの？どうだった？」など話が広がり、授業で習った中国語を使うこともでき、とてもよかったです。みんな英語が上手で驚きました。また国際交流したいです。

○ 中国の生徒さんが積極的に話しかけてくれたのが、とてもよかったです。日本文化を楽しそうにやってくれたので、とてもうれしかったです。優しい人たちばかりでとても温かみを感じました。中国の文化も学んでみたいと思うようになりました。いい経験でした。

○ 中国の生徒さんが作った映画は、考えさせられるものが多くてすごかったです。その後に行った学校紹介は、いろいろな設備に興味をもってくれたようで、説明をするたびに中国の学校の話をしてくれて、過ごし方を知ることができました。日本文化の体験で私は羽根つきだったのですが、どの生徒さんも楽しそうに遊んでいました。私たちも簡単な英語で説明したりもできました。羽根つきに興味をもってくれて、二通りの遊び方を全員でやってみたりもすることができて、とても楽しかったです。異国の生徒同士で、日本の文化に触れながら楽しんでコミュニケーションをとることができてよかったです。

6. 参加者の対外発信

12月6日／高校生／Wechat	12月6日／高校生／Wechat
	
<p>前夜祭（交流会）についての発信 私はこの映画祭がすっかり気に入った！カンボジアと韓国、それとフレンドリーなお兄ちゃん、お姉ちゃんたち、みんな大好き。</p>	<p>鳴門の渦潮参観についての発信 大鳴門橋のたもとの沖、今回は大きな渦潮は観られず。波打つ様子を撮ってみた。</p>

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

	
<ul style="list-style-type: none"> ・周りの友人に今回の訪日で経験したことや面白かったことを伝えたい。食文化や風土、人の好意など。 ・日本文化の勉強を続け、これからも日本の漫画やアニメを見ていきたい。 ・日本でできた友人と連絡を取り合いたい。 ・積極的に環境保護の活動に参加したい。日本の汚水、ゴミなどのリサイクル技術や分別方法を覚えて帰って中国でも運用し、自分たちを取り巻く環境の改善のために努力したい。 ・日本の防災システムについて理解を深められた。地震や水害の予防や対応の仕方について、友人や家族に伝え、さらに今後書く論文の題材にも盛り込みたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・もし日本の友人が私たちの学校に来たら、下北沢成徳高校での活動を参考にして交流プログラムを組みたい。 ・学校の SNS アカウントで訪日の経験や感想を発信したい。 ・各国の友人が中国に遊びに来る時は、手伝いやおもてなしをしたい。 ・SNS に日本での経験を投稿し、友達にシェアしたい。